

Title	現代における詩と音楽：領域横断的共同研究：民謡からヒップホップまで
Sub Title	Interdisciplinary studies of music and poesy. From folklore to hip hop.
Author	桑川, 麻里生(Kumekawa, Mario)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>1. 音楽演奏アンサンブルの教育効果を議論するために、「ロック・ギター」と「クラシック弦楽アンサンブル」のワークショップを開催した。2. 同じく、民謡およびヒップホップと大学における人文系諸学との連携を研究するために、ワークショップとレクチャーコンサートを開催し、それらについての議論を数度にわたって重ねた。「1」については、ロック音楽およびクラシック音楽のアンサンブルを学ぶことが、いわゆる「身体知」の研究および教育として総合大学のプログラムとしても極めて有益であるという洞察が得られた。演奏に際しての身体の使い方に意識を用いることと、演奏仲間とのインタープレイを「2」については、まず、民謡というものが、現代なお創作され、伝統的に継承された曲たちとともに演奏され続けている生きた文化であることを確認した上で、大学という場で、民謡がその文化的・時代的背景のレクチャーとともに紹介されることで、それらの民謡を生み出した社会や文化圏に関する洞察を生き生きとしたものにすると同時に、人々の関心を引き、新たな議論を可能にする、すなわち優れた文学と同様の存在意義を持つことが明らかにされた。また、ヒップホップに関しても、この新しい文化潮流を大学に導入することの意義が相当適度明らかにされた。すなわち、ラップにおける韻文創作が、伝統的な文学研究と結びつくことにより、「韻文」というものが持っている社会的な意味に、現代的な光が当てられたり、DJという(音楽の「引用」を多様に組み合わせる)営みが持つポストモダン的な性格などが明らかにされた。また、ラップにおける韻の音声学的な意味についての先進的な議論も創始することができた。</p> <p>1. We held workshops on "Rock guitar" and "Classical string ensemble" to discuss the educational effect of music-performance ensemble. 2. Workshops and lecture-concerts were held to investigate the collaboration of folk songs and hip hop with humanities in universities. With regard to "1", some insights were gained that learning the rock music and classical music ensembles was extremely useful as a university program, as research and education of the so-called "body knowledge". Regarding „2", We verified that folk songs are created even now and continue to be played with traditionally inherited songs. It is a living culture. And, when folk songs are introduced together with lectures of their cultural and historical backgrounds, people's interests are invoked and new arguments are made possible. Regarding hip-hop, the significance of introducing this new cultural trend into the university was also clarified. By associating the creation of verse in rap with traditional poetry, the social meaning of 'verse' is hit by modern light. In DJ as 'quotation' of music and variety of combinations postmodern nature was revealed. We were also able to create advanced discussions on the phonetic meaning of rhyme in Rap.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000002-20170326

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	350 千円
	氏名	桑川 麻里生	氏名（英語）	Mario Kumekawa		
研究課題（日本語）						
現代における詩と音楽 ——領域横断的共同研究：民謡からヒップホップまで						
研究課題（英訳）						
Interdisciplinary studies of music and poesy. From folklore to hip hop.						
研究組織						
氏 名 Name		所属・学科・職名 Affiliation, department, and position				
桑川麻里生（Mario Kumekawa）		文学部教授、アート・センター副所長				
大和田俊之（Toshiyuki Ohwada）		法学部教授、アート・センター所員				
川原繁人（Shigeto Kawahara）		言語文化研究所准教授				
1. 研究成果実績の概要						
<p>1. 音楽演奏アンサンブルの教育効果を議論するために、「ロック・ギター」と「クラシック弦楽アンサンブル」のワークショップを開催した。</p> <p>2. 同じく、民謡およびヒップホップと大学における人文系諸学との連携を研究するために、ワークショップとレクチャーコンサートを開催し、それらについての討論を数度にわたって重ねた。「1」については、ロック音楽およびクラシック音楽のアンサンブルを学ぶことが、いわゆる「身体知」の研究および教育として総合大学のプログラムとしても極めて有益であるという洞察が得られた。演奏に際しての身体の使い方に意識を用いることと、演奏仲間とのインタープレイを「2」については、まず、民謡というものが、現代なお創作され、伝統的に継承された曲たちとともに演奏され続けている生きた文化であることを確認した上で、大学という場で、民謡がその文化的・時代的背景のレクチャーとともに紹介されることで、それらの民謡を生み出した社会や文化圏に関する洞察を生き生きとしたものになると同時に、人々の関心と呼び、新たな議論を可能にする、すなわち優れた文学と同様の存在意義を持つことが明らかにされた。また、ヒップホップに関しても、この新しい文化潮流を大学に導入することの意義が相当適度明らかにされた。すなわち、ラップにおける韻文創作が、伝統的な文学研究と結びつくことにより、「韻文」というものが持っている社会的な意味に、現代的な光が当てられたり、DJ という（音楽の「引用」を多様に組み合わせる）営みが持つポストモダン的な性格などが明らかにされた。また、ラップにおける韻の音声学的な意味についての先進的な議論も創始することができた。</p>						
2. 研究成果実績の概要（英訳）						
<p>1. We held workshops on "Rock guitar" and "Classical string ensemble" to discuss the educational effect of music-performance ensemble. 2. Workshops and lecture-concerts were held to investigate the collaboration of folk songs and hip hop with humanities in universities. With regard to "1", some insights were gained that learning the rock music and classical music ensembles was extremely useful as a university program, as research and education of the so-called "body knowledge". Regarding "2", We verified that folk songs are created even now and continue to be played with traditionally inherited songs. It is a living culture. And, when folk songs are introduced together with lectures of their cultural and historical backgrounds, people's interests are invoked and new arguments are made possible. Regarding hip-hop, the significance of introducing this new cultural trend into the university was also clarified. By associating the creation of verse in rap with traditional poetry, the social meaning of 'verse' is hit by modern light. In DJ as 'quotation' of music and variety of combinations postmodern nature was revealed. We were also able to create advanced discussions on the phonetic meaning of rhyme in Rap.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）			
川原繁人	日本語ラップと言語感覚	慶應義塾大学アート・センター刊『マンダラ・ムジカ』	2018 年 3 月			
桑川麻里生	学問としての音楽	慶應義塾大学アート・センター刊『マンダラ・ムジカ』	2018 年 3 月			
大和田俊之	ジャズ録音 100 年	慶應義塾大学アート・センター「拡張するジャズ」シンポジウム	2017 年 12 月 10 日			